

まちづくりやボランティアなどに参加している  
地域活動の担い手をシリーズで紹介します

子どもたちに折り紙の折り方を説明する沓澤会長（右端）



# 昔遊びで 楽しく交流



子どもたちに昔遊びを伝える活動をしている「三世代交流協会北区ゆりの会」。昔遊びを通じた地域の交流を紹介します。

## 昔遊びをきっかけに

ゆりの会（沓澤佐妃子会長）は、10年ほど前から昔遊びの伝承活動を行っています。発足のきっかけは、小学校から子どもたちと地域の人たちとの交流の時間をつくりたいと相談されたこと。

沓澤会長たちは、小さいころに遊んだ折り紙やけん玉、あやとりなどを使って交流することにしました。毎年、小学校の総合学習の時間などで活動しています。

「いろいろな世代の人と交流することは子どもたちの成長にとっても大事だと思えますし、私たちも元気をもらうことができます」と沓澤会長は話します。

## たくさんの人と一緒に

児童会館などでも交流会を開いており、昔遊び名人たちが活躍しています。ただ、高齢化による引退も多く、会員の減少が悩みです。大学生が企画した行事に参加することもあるため、それをきっかけに大学生たちにも昔遊びに触れてもらい、活動を広げたいと考えています。

自分たちとの交流が、少しでも子どもたちの成長に役立てばうれしいと話す沓澤会長。心豊かに成長した子どもたちが、将来すてきなまちをつくることを願って、ゆりの会の活動は続きます。



子どもたちと話をするのが一番の楽しみです

三世代交流協会とは？

折り紙、けん玉、こま回しをはじめとする昔遊びで子どもたちとの交流を深めており、市内各区で活動しています。

ゆりの会では病院の院内学級や子育てサロンなど、さまざまな場所で活動を行っています。また、大学生らと協力して地域のお祭りや外国人留学生との交流会に参加することも。

子育てサロンでは小さな子どもとお母さんが一緒に遊べるような紙風船を作ったり、児童会館では自分で作ったものを持ち帰れるように折り紙遊びをするなど、場所に合わせて工夫しています。

幼いころ昔遊びに親しんだ人も初めての人も、楽しみながら地域と交流してみませんか？

詳細  
沓澤会長（自宅）  
☎ 756-3223

